

古文ドリル：「に」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） **著作権：**個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「に」の正体（8パターン）

古文の「に」は **識別問題の最難関** と言われます。大きく **8種類** あります。

種類	接続/品詞	判別ポイント	例
① 完了の助動詞「ぬ」連用形「に」	連用形接続	下に「き・けり・たり」など	花咲き に けり
② 断定の助動詞「なり」連用形「に」	体言・連体形接続	下に「あり・侍り・はべり」	男 に ありけり
③ ナ変動詞「往ぬ」「死ぬ」連用形	ナ変動詞	「往に」「死に」一語	往 に けり／死 に ぬ
④ ナリ活用形容動詞 連用形語尾「に」	形容動詞	「静か」「あはれ」など語幹あり	静か に ／あはれ に
⑤ 副詞の一部「に」	副詞	「げに」「つひに」「すでに」	げ に ／つひ に ／す で に
⑥ 格助詞「に」	体言・連体形接続	場所・時間・対象・目的・原因	京 に 行く／夕方 に 着く
⑦ 接続助詞「に」	連体形接続	原因・逆接・並列「～ので／～のに」	雨降る に 、出でず
⑧ 副助詞「に」	強調	同じ語の反復「見る に 見る」など	待ち に 待ちて

識別の鉄則

1. **下接語** を最優先で見る
2. 「**にけり**／**にき**／**にたり**／**にけむ**」→ 完了「ぬ」連用形
3. 「**にあり**／**に侍り**／**にはべり**／**におはす**」→ 断定「なり」連用形
4. **直前の語** を見る
5. 体言・連体形＋「に」→ 断定 or 格助詞 or 接続助詞
6. 連用形＋「に」→ 完了 or 形容動詞語尾 or ナ変動詞
7. 副詞「げに・つひに」など→ 副詞の一部（一語で覚える）

8. **形容動詞の語尾** は「に」だけで存在しない。必ず「静か・あはれ・きよら・あらた」など語幹を伴う
9. **接続助詞「に」** は連体形+「に」で「～ので／～のに」と訳せる
10. **断定「なり」連用形「に」** は下に「あり」など変動詞か補助動詞が必須
- 最初の20問は8パターンの基礎、後半に進むにつれて 入試で頻出の引っかけパターン、係り結び・敬語が絡む応用、さらに難関大の実戦問題へとレベルが上がります。

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「に」を見たら まず下接語（直後の語）を瞬時にスキャン

- ・「にけり／にき／にたり／にけむ／にたる」→ 完了「ぬ」連用形** で即決
- ・「にあり／に侍り／にはべり／におはす／にこそ／にや／にか」→ 断定「なり」連用形**
- ・この2パターンで「に」の頻出問題の **半分以上** が片付く。下を見る癖をつける。

コツ② 「○○に」の ○○の品詞・形 を見る

- ・「静かに／あはれに／きよらに／にはかに」→ **形容動詞ナリ活用**の語尾（語幹に意味がある語）
- ・「げに／つひに／さらに／すでに／まことに」→ **副詞の一部**（一語で覚える）
- ・これは「に」単独で識別せず、語幹ごとパターン暗記。

コツ③ 「往に・死に」が見えたら それだけで終了

- ・「往ぬ」「死ぬ」はナ変。「往に」「死に」は **一語の動詞の連用形**。
- ・形を見た瞬間に「ナ変連用形」と答えを書く。前後を見る必要なし。

コツ④ 「連体形+に」は 訳して決める

- ・「～のに／～ので」と訳せる → **接続助詞「に」**（例：雨降るに、出でず）
- ・場所・時間・対象を表す → **格助詞「に」**（例：京に行く）
- ・連体形の下に「あり／侍り」があれば断定（コツ①の例外確認）

試験本番でのチェック順序

1. **下接語** を見る（けり・たり・あり・侍り → 完了 or 断定で即決）
2. 「往に」「死に」かどうか確認（YES → ナ変連用形）

3. 直前が「静か・あはれ」など **語幹** ならナリ活用形容動詞語尾
 4. 「げに・つひに」などは副詞として一語で覚えている語と照合
 5. 残ったら **連体形+に** → 訳で接続助詞 or 格助詞を決める
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・「**にて**」「**にして**」が来たら「に」単独で識別せず別物として扱う（場所・手段の格助詞または接続）
- ・「あり**に**けり」のような「**あり+に+けり**」は完了「ぬ」連用形。断定と勘違いしない
- ・「**にこそ／にや／にか**」は **断定「なり」+係助詞** で、下に「あらめ／あらむ」が省略されているパターン
- ・形容動詞語尾の「に」を格助詞と取り違える → 語幹に意味があるかで判定

採点表

各セクション末に空欄を残してあります。最後にトータルで「100点満点中何点取れたか」を記録してください。

- ・ 基礎 (Q1~Q20) : /20
- ・ 標準 (Q21~Q50) : /30
- ・ 応用 (Q51~Q80) : /30
- ・ 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- ・ 合計 : /100

【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

8パターンを純粹に識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「に」を識別せよ。

花咲き**に**けり。

答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説**：「咲き」は四段「咲く」連用形。直後「けり」は連用形接続の過去。「に+けり」は完了「ぬ」連用形+過去「けり」の定型。「花が咲いてしまった」。

Q2. 次の傍線部「に」を識別せよ。

男にありけり。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「男」＋「に」＋「あり」（う変）。「断定＋あり」は典型構文で、「～である」の意。「男であった」。

Q3. 次の傍線部「に」を識別せよ。

静かに眠る。

答え：ナリ活用形容動詞「静かなり」連用形語尾「に」 **解説：**「静か」（語幹）＋「に」（活用語尾）で形容動詞の連用形。下に動詞「眠る」が来る修飾。「静かに眠る」。

Q4. 次の傍線部「に」を識別せよ。

京に行く。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「京」＋「に」＋動詞「行く」。場所・方向を示す格助詞。「京に行く」。

Q5. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雨降るに、出でず。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「降る」＋「に」。連体形接続の接続助詞で、原因「～ので」または逆接「～のに」の意。ここは「雨が降るので、出かけない」。

Q6. 次の傍線部「に」を識別せよ。

春過ぎて夏来にけり。

答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説：**「来（き）」カ変連用形＋「に＋けり」。万葉集の有名な歌。「春が過ぎて、夏が来てしまったなあ」。

Q7. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あはれに思ふ。

答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あはれ」（語幹）＋「に」（活用語尾）＋「思ふ」。「しみじみと思う」。

Q8. 次の傍線部「に」を識別せよ。

山に入る。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「山」＋「に」＋動詞「入る」。場所を示す格助詞。

Q9. 次の傍線部「に」を識別せよ。

往にけり。

答え：ナ変動詞「往ぬ」連用形「往に」 **解説：**「往ぬ」（立ち去る、ナ行変格活用）の連用形「往に」＋過去「けり」。「立ち去った」。「往に」で一語の動詞活用形。

Q10. 次の傍線部「に」を識別せよ。

げにさも侍る。

答え：副詞「げに」の一部「に」 **解説：**「げに」（＝本当に、なるほど）は一語の副詞。「に」を独立した助詞・助動詞と取らない。「本当にそのようでございます」。

Q11. 次の傍線部「に」を識別せよ。

都にありけり。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「都」＋「に」＋「ありけり」。「都であった／都にいた」と訳す場合は格助詞「に」＋「あり」（存在）の解釈もあるが、定型「**に+あり**」は断定。文脈で判断。多くは断定として処理。

Q12. 次の傍線部「に」を識別せよ。

つひに雪降りぬ。

答え：副詞「つひに」の一部「に」 **解説：**「つひに」（＝ついに、とうとう）は一語の副詞。「とうとう雪が降ってしまった」。

Q13. 次の傍線部「に」を識別せよ。

夕方**に**着く。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「夕方」＋「に」＋動詞「着く」。時間を示す格助詞。

Q14. 次の傍線部「に」を識別せよ。

花咲く**に**、人来たる。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「咲く」＋「に」。原因「～ので」または時「～と」。「花が咲くので、人が来る」。

Q15. 次の傍線部「に」を識別せよ。

死**に**ぬ。

答え：ナ変動詞「死ぬ」連用形「死に」 **解説：**「死ぬ」（ナ変）の連用形「死に」＋完了「ぬ」終止形。「死んでしまった」。「死に」で一語の動詞活用形。

Q16. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あらた**に**造る。

答え：ナリ活用形容動詞「あらたなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あらた」（語幹）＋「に」＋「造る」。「新たに造る」。

Q17. 次の傍線部「に」を識別せよ。

母**に**会ふ。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「母」＋「に」＋動詞「会ふ」。相手・対象を示す格助詞。

Q18. 次の傍線部「に」を識別せよ。

花咲き**に**たり。

答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説：**「咲き」連用形＋「に＋たり」。完了「ぬ」連用形＋存続「たり」。「花が咲いている」。

Q19. 次の傍線部「に」を識別せよ。

御使ひに侍り。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「御使ひ」＋「に」＋「侍り」（補助動詞）。
「お使いでございます」。「に+侍り」も断定の典型。

Q20. 次の傍線部「に」を識別せよ。

すでに夜更けぬ。

答え：副詞「すでに」の一部「に」 **解説：**「すでに」（＝もう、とっくに）は一語の副詞。「もう夜が更けてしまった」。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

「に」の前後にさらに別の助動詞・敬語・係助詞が絡むパターン、文脈で識別が必要なパターン。

Q21. 次の傍線部「に」を識別せよ。

月出でにけり。

答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説：**「出で」下二段「出づ」連用形＋「にけり」。「月が出てしまった」。

Q22. 次の傍線部「に」を識別せよ。

男におはしけり。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「男」＋「に」＋「おはす」（尊敬補助動詞）。「に+おはす」も断定の典型。「（高貴な方が）男でいらっしゃった」。

Q23. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あはれに侍り。

答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 **解説：**形容動詞「あはれなり」連用形「あはれに」＋丁寧の補助動詞「侍り」。「しみじみと感慨深うございます」。語幹「あはれ」＋活用語尾「に」で形容動詞の連用形。

Q24. 次の傍線部「に」を識別せよ。

夜更くる**に**、なほ語る。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「更くる」（下二段「更く」）＋「に」。「夜が更けるのに、なお語る」（逆接）または「夜が更けてくるので、なお語る」（原因）。

Q25. 次の傍線部「に」を識別せよ。

京**に**のぼる。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「京」＋「に」＋動詞「のぼる」。方向を示す格助詞。

Q26. 次の傍線部「に」を識別せよ。

露置く秋**に**なりぬ。

答え：格助詞「に」 **解説：**「秋」＋「に」＋「なる」。「～になる」の構文では格助詞「に」が変化の結果を示す。※「なり」が断定の「なり」ではなく動詞「なる」（成る）であることに注意。

Q27. 次の傍線部「に」を識別せよ。

哀れ**に**もあるかな。

答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あはれ」＋「に」（活用語尾）＋係助詞「も」＋「あり」＋詠嘆「かな」。「しみじみとしているなあ」。※「に＋も＋あり」の形は形容動詞語尾の連用形＋係助詞「も」＋ラ変動詞。

Q28. 次の傍線部「に」を識別せよ。

死**に**たる人。

答え：ナ変動詞「死ぬ」連用形「死に」 **解説：**「死に」（ナ変連用）＋「たり」（連用形接続の存続）連体形＋体言「人」。「死んでいる人」。

Q29. 次の傍線部「に」を識別せよ。

ことさらに急ぐ。

答え：ナリ活用形容動詞「ことさらなり」連用形語尾「に」 **解説：**「ことさら」（語幹）＋「に」＋「急ぐ」。「わざわざ急ぐ」。

Q30. 次の傍線部「に」を識別せよ。

道に迷ふ。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「道」＋「に」＋動詞「迷ふ」。場所・対象を示す格助詞。

Q31. 次の傍線部「に」を識別せよ。

花咲くに、雨降れり。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「咲く」＋「に」。逆接「～のに」または「～と同時に」。「花が咲くのに、雨が降っていた」。

Q32. 次の傍線部「に」を識別せよ。

我れ古典の道にあらず。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「道」＋断定「なり」連用形「に」＋う変「あり」未然形「あら」＋打消「ず」終止形。「私は古典の道（の専門家）ではない」。「に＋あり／侍り」のパターンは断定の典型。

Q33. 次の傍線部「に」を識別せよ。

都人に侍り。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「都人」＋「に」＋「侍り」。「都の人でございます」。

Q34. 次の傍線部「に」を識別せよ。

山に入る人なし。

答え：格助詞「に」 解説：「山」＋「に」＋「入る」。場所を示す格助詞。

Q35. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雪降り出でにけり。

答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 解説：「降り出で」（複合動詞）連用形＋「にけり」。「雪が降り始めてしまった」。

Q36. 次の傍線部「に」を識別せよ。

寒げに見ゆ。

答え：ナリ活用形容動詞「寒げなり」連用形語尾「に」 解説：「寒げ」（語幹）＋「に」＋「見ゆ」。「寒そうに見える」。「～げなり」は様子・状態を表す形容動詞語尾。

Q37. 次の傍線部「に」を識別せよ。

我にな問ひそ。

答え：格助詞「に」 解説：体言「我」＋「に」＋禁止「な～そ」。「私に尋ねないでくれ」。

Q38. 次の傍線部「に」を識別せよ。

のどかに過ぐ。

答え：ナリ活用形容動詞「のどかなり」連用形語尾「に」 解説：形容動詞「のどかなり」連用形「のどかに」＋動詞「過ぐ」。「のどかに過ごす」。語幹「のどか」＋活用語尾「に」で形容動詞の連用形。

Q39. 次の傍線部「に」を識別せよ。

いかにせむ。

答え：ナリ活用形容動詞「いかなり」連用形語尾「に」 解説：「いか」（語幹「いかなり」の語幹）＋「に」（活用語尾）＋「せむ」。「どうしようか」。 ※「いかに」は感動詞的にも使われるが、もとは形容動詞連用形。

Q40. 次の傍線部「に」を識別せよ。

帰るに帰られず。

答え：副助詞・接続助詞の用法（強調）「に」 **解説：**同じ動詞の反復「動詞Aに動詞A・れ・ず」で「動詞しようとしてもできない」の意。「帰ろうとしても帰れない」。「に」は強調用法。 ※ 文法書によって接続助詞・副助詞の分類が分かれるが、典型的反復構文として覚える。

Q41. 次の傍線部「に」を識別せよ。

げに思ふ。

答え：副詞の一部「げに」 **解説：**副詞「げに」（=本当に、なるほど）の一部としての「に」。一語で覚える副詞表現。「本当にそう思う」。「げに」「すでに」「つひに」「いかに」など、副詞は一語まると覚える。

Q42. 次の傍線部「に」を識別せよ。

海に漕ぎ出づ。

答え：格助詞「に」 **解説：**「海」＋「に」＋動詞「漕ぎ出づ」。場所・方向を示す格助詞。

Q43. 次の傍線部「に」を識別せよ。

ことば多きに、心せばし。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「多き」（形容詞「多し」ク活用連体形）＋「に」。「言葉が多いのに、心は狭い」（逆接）。

Q44. 次の傍線部「に」を識別せよ。

御所に侍り。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 or 格助詞「に」＋う変「侍り」（存在） **解説：**両方の解釈が可能。「御所でございます」（断定）／「御所におります」（存在）。文脈で判断。 ※ 多くの場合、所在を述べる場面なら格助詞＋う変、身分・性質を述べる場面なら断定。

Q45. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あらた**に**起こる。

答え：ナリ活用形容動詞「あらたなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あらた」＋「に」＋「起こる」。「新たに起こる」。

Q46. 次の傍線部「に」を識別せよ。

寝（ね）**に**けり。

答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説：**下二段「寝（ぬ）」連用形「ね」＋完了「ぬ」連用形「に」＋過去「けり」終止形。「眠ってしまった」。連用形＋「に＋けり」は「～にけり」＝完了のパターン（最頻出）。

Q47. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雪深き**に**、道見えず。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「深き」（形容詞「深し」ク活用連体形）＋「に」。原因「～ので」。「雪が深いので、道が見えない」。

Q48. 次の傍線部「に」を識別せよ。

都**に**は花咲きにけり。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「都」＋「に」＋係助詞「は」。「都では花が咲いてしまった」。

Q49. 次の傍線部「に」を識別せよ。

夜半**に**おどろく。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「夜半」＋「に」＋動詞「おどろく」。時を示す格助詞。「夜中に目を覚ます」。

Q50. 次の傍線部「に」を識別せよ。

をかしげ**に**ものし給ふ。

答え：ナリ活用形容動詞「をかしげなり」連用形語尾「に」 **解説：**「をかしげ」（=趣ある様子の、語幹）＋「に」＋「ものし給ふ」。「趣のある様子でいらっしゃる」。

標準編 / 30

【第3部】 応用編（Q51～Q80）

文脈・係り結び・敬語・引用が絡む応用問題。

Q51. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あはれ**に**おぼしめす。

答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あはれ」＋「に」＋尊敬「おぼしめす」（=お思いになる）。「しみじみとお思いになる」。

Q52. 次の傍線部「に」を識別せよ。

風のどかに**に**吹く。

答え：ナリ活用形容動詞「のどかなり」連用形語尾「に」 **解説：**形容動詞「のどかなり」連用形「のどかに」＋動詞「吹く」。「風がのどかに吹く」。語幹「のどか」＋活用語尾「に」。

Q53. 次の傍線部「に」を識別せよ。

我は男**に**こそありけれ。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「男」＋「に」＋係助詞「こそ」＋「あり」＋過去「けり」已然形「けれ」（こその結び）。「私は男であった（よ）」。「**に+こそ+あり+けれ**」は断定の典型構文。

Q54. 次の傍線部「に」を識別せよ。

大納言**に**ぞありける。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「大納言」＋「に」＋係助詞「ぞ」＋「あり」＋過去「けり」連体形「ける」（ぞの結び）。「大納言であった」。

Q55. 次の傍線部「に」を識別せよ。

知る**に**及ばず。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「知る」＋「に」＋「及ばず」。「知るに及ばない／知るまでもない」。慣用表現。

Q56. 次の傍線部「に」を識別せよ。

物のあはれを知らぬ人**に**もあらず。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**連体形「知らぬ人」＋「に」＋係助詞「も」＋「あら（あり未然）」＋打消「ず」。「物のあわれを知らない人でもない」。※「**に＋も＋あらず**」も断定構文。

Q57. 次の傍線部「に」を識別せよ。

静か**に**夜は更けゆきけり。

答え：ナリ活用形容動詞「静かなり」連用形語尾「に」 **解説：**「静かなり」は古文頻出のナリ活用形容動詞。連用形「静かに」は「静か」（語幹）＋「に」（連用形語尾）の構造。「静かに夜が更けていった」。

Q58. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あはれ**に**思ひ給ふ。

答え：ナリ活用形容動詞「あはれなり」連用形語尾「に」 **解説：**形容動詞「あはれなり」連用形「あはれに」＋動詞「思ふ」連用形「思ひ」＋尊敬の補助動詞「給ふ」。「しみじみとお思いになる」。語幹「あはれ」＋活用語尾「に」。

Q59. 次の傍線部「に」を識別せよ。

名月**に**雲ある。

答え：接続助詞「に」（または格助詞「に」） **解説：**体言「名月」＋「に」＋動詞「ある」。場所・状態を示す格助詞「名月に雲がある」。※ 連体形＋「に」なら接続助詞だが、ここは体言＋「に」なので格助詞。

Q60. 次の傍線部「に」を識別せよ。

のどかに春の日を過ごしけり。

答え：ナリ活用形容動詞「のどかなり」連用形語尾「に」 **解説：**「のどかなり」は「ゆったりと穏やか」の意のナリ活用形容動詞。連用形「のどかに」が動詞「過ごす」を修飾する。「のどかに春の日を過ごした」。

Q61. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雨降るに、なほ来たる人なし。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「降る」＋「に」。「雨が降るのに、なおも来る人はいない」(逆接)。

Q62. 次の傍線部「に」を識別せよ。

神に祈り給ふ。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「神」＋「に」＋動詞「祈る」。対象を示す格助詞。

Q63. 次の傍線部「に」を識別せよ。

露にもぬる袖。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「露」＋「に」＋係助詞「も」＋「ぬる」(下二段「濡る」連体形)＋体言「袖」。「露でも濡れる袖」。原因・手段を示す格助詞。

Q64. 次の傍線部「に」を識別せよ。

飽かずに別る。

答え：副助詞・接続助詞的用法「に」 **解説：**打消「ず」連用形＋「に」＋「別る」。「物足りないまま別れる」の意で「ず＋に」は連用形扱い。※ 厳密には「ず」連用形＋接続助詞「に」と解釈する文法書もある。

Q65. 次の傍線部「に」を識別せよ。

御供仕うまつるに、御車止まりぬ。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「仕うまつる」＋「に」。「お供申し上げると／お供申し上げて
いると」。

Q66. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あらは**に**仰せらる。

答え：ナリ活用形容動詞「あらはなり」連用形語尾「に」 **解説：**「あらは」(＝明らかな、語幹)＋
「に」＋尊敬「仰せらる」。「あらわにお命じになる」。

Q67. 次の傍線部「に」を識別せよ。

庭**に**月さしけり。

答え：格助詞「に」 **解説：**「庭」＋「に」＋動詞「さす」。場所を示す格助詞。「庭に月の光がさし
込んでいた」。

Q68. 次の傍線部「に」を識別せよ。

静か**に**思ひ侍り。

答え：ナリ活用形容動詞「静かなり」連用形語尾「に」 **解説：**形容動詞「静かなり」連用形「静か
に」＋動詞「思ふ」連用形「思ひ」＋丁寧の補助動詞「侍り」。「静かに思っております」。語幹「静
か」＋活用語尾「に」。

Q69. 次の傍線部「に」を識別せよ。

思ふ**に**たがふ。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「思ふ」＋「に」＋「たがふ」(＝異なる)。「思うのと違う」。

Q70. 次の傍線部「に」を識別せよ。

月**に**ぞ宿る。

答え：格助詞「に」 **解説：**「月」＋「に」＋係助詞「ぞ」＋「宿る」(連体形が結び)。「月にこそ宿
る／月に宿るのだ」。場所を示す格助詞。

Q71. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あけぼの**に**こそ。

答え：格助詞「に」 **解説：**「あけぼの」(=明け方) + 「に」 + 係助詞「こそ」(結びの省略、文意「～であろう」)。「明け方こそ(趣がある)」。
枕草子の有名な「春はあけぼの」の文体。

Q72. 次の傍線部「に」を識別せよ。

鳥**に**な慕はれそ。

答え：格助詞「に」 **解説：**「鳥」 + 「に」 + 禁止「な～そ」「慕はれ」(四段「慕ふ」未然+受身「る」連用)。「鳥に慕われるな」。受身の対象を示す格助詞。

Q73. 次の傍線部「に」を識別せよ。

待ち**に**待ちたれども、来ず。

答え：副助詞・強調用法「に」 **解説：**同じ動詞の連用形反復「動詞A連用+に+動詞A連用・たり」で強調。「ずっと待ち続けたけれども、来ない」。

Q74. 次の傍線部「に」を識別せよ。

名月**に**雲、花**に**風。

答え：格助詞「に」 **解説：**「名月」 + 「に」 + 「雲」、「花」 + 「に」 + 「風」。並列・対比の格助詞。「名月には雲、花には風(がつきもの)」。
徒然草の「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは」の文脈に近い。

Q75. 次の傍線部「に」を識別せよ。

をかしげ**に**おはす。

答え：ナリ活用形容動詞「をかしげなり」連用形語尾「に」 **解説：**「をかしげ」 + 「に」 + 尊敬「おはす」。「趣のある様子でいらっしゃる」。

Q76. 次の傍線部「に」を識別せよ。

親**に**孝なる人。

答え：格助詞「に」 **解説：**「親」＋「に」＋形容動詞「孝なる」連体形＋体言「人」。「親に孝行な人」。対象を示す格助詞。

Q77. 次の傍線部「に」を識別せよ。

行く春**に**惜しまるる人。

答え：格助詞「に」 **解説：**「行く春」＋「に」＋「惜しまるる」（四段「惜しむ」未然＋受身「る」連体）＋「人」。「過ぎ行く春に惜しまれる人」。受身の動作主を示す格助詞。

Q78. 次の傍線部「に」を識別せよ。

神**に**祈る。

答え：格助詞「に」（対象） **解説：**体言「神」＋格助詞「に」（動作の対象）＋動詞「祈る」。「神に祈る」。体言＋に＋動詞のパターンで、対象・場所・時間を示す格助詞。

Q79. 次の傍線部「に」を識別せよ。

嵐**に**散る花。

答え：格助詞「に」 **解説：**「嵐」＋「に」＋動詞「散る」＋体言「花」。原因・手段を示す格助詞。「嵐によって散る花」。

Q80. 次の傍線部「に」を識別せよ。

言ふ**に**言はれず。

答え：副助詞・強調用法「に」 **解説：**同じ動詞の反復「言ふ**に**言は・れ・ず」で「言おうとしても言えない／言うに言われない」。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

実際の大学入試（共通テスト・難関私大・国公立二次）レベル。

Q81. 次の傍線部「に」を識別せよ。

男ありけり。その男、身を要なきものに思ひなして、京にはあらじ、東の方に住むべき国求め
に
とて行きけり。

答え：傍線部の「に」の解釈 **解説：**「求めに**とて**」の「に」は格助詞「に」＋引用「とて」。「求め
て」の意の動作の目的を示す格助詞。伊勢物語第九段の冒頭。「(住むのに適した) 国を求めようと
して行った」。**正答：**格助詞「に」

Q82. 次の傍線部「に」を識別せよ。

いつぞやの事なりけむ。月の出づるを見つけたる人ありて、「あれは何**にか**」と問ひければ、
隣の翁、「月にこそあれ」と答ふ。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「何」＋「に」＋係助詞「か」(疑問)。連体
形の結びとして「あらむ」「ある」などが省略されている。「あれは何であろうか」。「**に+か(+あら
む)**」の断定構文。

Q83. 次の傍線部「に」を識別せよ。

京にて生まれたりし女子、国にてにはかに失せ**に**しかば、このたび、はやくと思ふ心あり。

答え：完了の助動詞「ぬ」連用形「に」 **解説：**「失せ」下二段「失す」連用形＋「に」(完了「ぬ」
連用形)＋「し」(過去「き」連体形)＋「かば」(已然形+ばの音便、原因)。土佐日記の有名な
一節。「(国で) 急に亡くなってしまったので」。

Q84. 次の傍線部「に」を識別せよ。

五月雨を集めて早し最上川――この句、芭蕉が出羽の国にて詠ぜしもの**に**こそ。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「もの」＋「に」＋係助詞「こそ」＋結び省
略(～あれ)。「(～詠じた) ものである(よ)」。

Q85. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子参りて、炭櫃に火おこして、物語などしてあつまり
候ふ**に**、「少納言よ、香炉峰の雪、いかならむ」と仰せらるれば、御格子上げさせて、御簾を
高く上げたれば、笑はせ給ふ。

答え：傍線部「物語などしてあつまり候ふに」の「に」 **解説：**連体形「候ふ」＋「に」。接続助詞で「～していたところ」の意。枕草子「香炉峰の雪」段。「物語などをして集まり申し上げていたところ」。**正答：**接続助詞「に」

Q86. 次の傍線部「に」を識別せよ。

中納言参り給ひて、御扇奉らせ給ふに、「隆家こそいみじき骨は得て侍れ」と申し給ふ。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「給ふ」＋「に」。「中納言が参上なさって、御扇を差し上げなさるときに」。枕草子の有名な一節。

Q87. 次の傍線部「に」を識別せよ。

暁に鳥の声を聞きて、目覚めぬ。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「暁」（＝明け方）＋「に」＋動詞「聞く」。時を示す格助詞「に」。「明け方に鳥の声を聞いて、目覚めた」。

Q88. 次の傍線部「に」を識別せよ。

いとほしき御けはひに、上に心も乱れて、「げに、かばかりの罪、深かるべし」と思ひ給ふ。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「上」（＝帝、宮中の方）＋「に」＋動詞「心も乱る」。対象を示す格助詞。「帝（の御様子）に心も乱れて」。

Q89. 次の傍線部「に」を識別せよ。

折節の移り変はるこそ、ものごとにあはれなれ。

答え：格助詞「に」（または接続助詞的用法） **解説：**「ものごと」＋「に」＋形容動詞「あはれなり」已然形「あはれなれ」（こそ結び）。「ものごとにしみじみとした趣がある」。徒然草の一節。
※「ものごと」の「に」は副詞句を作る格助詞。

Q90. 次の傍線部「に」を識別せよ。

我は男にしあれば、女のかかる目に遭ふを見るも、心苦しき限りなり。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「男」＋「に」＋副助詞「し」（強調）＋「あれ」（う変已然形）＋「ば」（原因）。「私は男であるので」「に＋し＋あれば」も断定の典型。

Q91. 次の傍線部「に」を識別せよ。

よろづに^①いみじ。

答え：格助詞「に」（または副詞的用法） 解説：「よろづ」（=万事）＋「に」＋形容詞「いみじ」（=甚だしい）。「万事においてはなはだしい／何もかもひどい」。

Q92. 次の傍線部「に」を識別せよ。

木の葉に埋もるる懸樋のしづくならでは、つゆおとなふものなし。閑伽棚に菊・紅葉など折り散らしたる、さすがに^②住む人のあればなるべし。

答え：副詞「さすがに」の一部「に」 解説：「さすがに」は一語の副詞（=やはり、なんといっても）。徒然草第十一段。「やはり住む人がいるからなのであろう」。

Q93. 次の傍線部「に」を識別せよ。

あけぼのの空ぼおぼろにかすめるに^③、人の声する。

答え：接続助詞「に」 解説：連体形「かすめる」（四段動詞「かすむ」已然形「かすめ」＋完了「り」連体形「る」）＋「に」。「明け方の空がほのぼのと霞んでいるところに、人の声がする」。

Q94. 次の傍線部「に」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人^④はありやなしやに。

答え：終助詞的用法「に」（または間投助詞） 解説：和歌の句末で「～だなあ／～であるか」と詠嘆・疑問を示す用法。伊勢物語第九段「東下り」の歌。正格な助動詞・助詞の枠を超えるが、文末用法として記憶。

Q95. 次の傍線部「に」を識別せよ。

心にかかれども、口に出さず。

答え：格助詞「に」 解説：体言「心」＋「に」＋動詞「かかる」。場所・対象を示す格助詞。「心にかかるけれども、口に出さない」。

Q96. 次の傍線部「に」を識別せよ。

雪のいと高う降りたる**に**、几帳の帷子のさやさやと鳴る。

答え：接続助詞「に」 **解説：**連体形「降りたる」（四段連用＋完了「たり」連体）＋「に」。「雪が高く降り積もっているところに／積もっているうちに」。

Q97. 次の傍線部「に」を識別せよ。

ねぶたきも、人のけはひ**に**、ふと目覚むるものなり。

答え：格助詞「に」 **解説：**体言「けはひ」＋「に」＋動詞「目覚む」。原因・契機を示す格助詞。「眠いときも、人の気配によって、ふっと目覚めるものだ」。

Q98. 次の傍線部「に」を識別せよ。

唐土の人は、これをいみじと思へばこそ、記しとどめて世にも伝へけめ、これらは、ただ夢のごとくに**ぞ**ある。

答え：副詞「夢のごとくに」の一部「に」 **解説：**「ごとくに」は比況の助動詞「ごとし」連用形「ごとく」＋格助詞「に」、または副詞的用法。「夢のように」の意。

Q99. 次の傍線部「に」を識別せよ。

物のあはれは秋こそまされと人ごと**に**いふ。

答え：格助詞「に」 **解説：**「人ごと」（＝人それぞれ）＋「に」＋「いふ」。「人それぞれが言う／人ごとに言う」。徒然草の一節。

Q100. 次の傍線部「に」を識別せよ。

行く川のながれは絶えずしてしかも、もとの水**に**あらず。

答え：断定の助動詞「なり」連用形「に」 **解説：**体言「もとの水」＋「に」＋「あら」（う変未然）＋「ず」（打消）。方丈記冒頭の有名な一節。「もとの水ではない」。「**に+あらず**」は断定の打消。

入試レベル / 20

あとがき

「に」の識別は古文の中で最も難しいとされる項目です。 - まず **直前の語の品詞・活用形** を見る - 次に **直後の語** を見る（「けり」「あり」「侍り」「おはす」など） - 文意で判断するのが最後の手段

「**に+けり**=完了」「**に+あり**=断定」の2つの定型を完全に身につければ、半分はクリアできます。残りは形容動詞語尾・格助詞・接続助詞・副詞の一部を文脈で判別。本ドリル100問で「に」のすべてのパターンに触れています。繰り返し解いて、識別の勘を養ってください。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太 お問い合わせ：[フィット公式サイト](https://kotennosenensei.com)
